

# 横路福祉社会報

〒七三七一〇一一三  
呉市広横路四丁目一四六  
横路福祉会  
編集発行人  
神垣伸司  
(0823)7118197

「地道な禱りレー」

社会福祉法人 横路福祉会

理事長 神垣 伸司

新型コロナウイルス感染症が第2類から第5類に分類され、4年余にわたる感染対策の在りようが変わった。感染まん延期には、各保育行事の中止・縮小をせざるを得なかったことから、現在では、休眠状態からの過去の行事を紐解き、普通に戻すことにもどかしさを感じる。この間に失ったものが意外と大きい事に気づかされた。

横路保育所も、今年で75周年を迎えた。いつもであれば、地域の人や関係者を招待して行事とするところを、今回は関係者の代表と園児のみで実施した。

毎年、3月には卒園式を迎え、元気に育った新1年生を前に、うれしくもあり、寂しくもある。一方、4月には、新たな出会いがあるものの、この2年連続、定数を下回る入所園児数となるなど、保育所を取り巻く環境に大きな変化が見られる。感染症対策による在宅勤務をはじめ、感染者や濃厚接触者の在宅療養等の増加により、育児休業を1年以上取得される方が増えたこと、子どもの数が総体的に減少していること、大企業の閉鎖により当該地域からの転出が増えたこと等が要因と考えている。

一方、保育事業サイドでは、保育士の待遇改善（給与）のための措置や、配置基準（年齢に応じた子ども数にじた保育士の数）が園児にとって手厚く改正された。本園は、かねてより複数担任制を取り入れた保育体制の充実をしていることから影響はないが、経営の視点から見ればより手腕を求められる時代となってきた。子どもや保護者から選ばれる保育所への変革が急務とされる。利用者があって、保育士がいて（この逆もしかり）保育所が微妙なバランスで成り立っている。まさに、どれ一つ欠けても経営に支障が生じる。

横路保育所は、昭和24年、地域のPTAが苦勞して設立した、他の保育所にはない経緯を持っている。それ故、その意思を駆伝のように脈々と禱りレーしてきた。これからは、威厳をもって存立させ続けることが私どもに託された責務である。それだけに誰からも「横路保育所を利用したい」と言っていただけの日々研鑽を積んでいきたい。

『こども真ん中』驕ることなかれ、一番難しい「普通」に挑戦……



## 令和5年度 事業報告書

### 1. 保育児童数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0才児	2	2	3	5	6	6	6	6	6	6	6	6	60
1・2才児	41	40	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	491
3才児	26	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	323
4才以上児	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	624
計	121	121	123	125	126	126	126	126	126	126	126	126	1,498
開所日数	24	24	26	25	26	24	25	24	24	23	23	25	293

※ コロナ感染症によりクラス休園3回

### 2. 一時保育利用者数(延べ人数)の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
3才未満児	41	35	33	61	38	47	62	70	59	64	81	80	671
3才以上児	0	0	0	0	10	8	11	13	14	11	0	0	67
計	41	35	33	61	48	55	73	83	73	75	81	80	738

### 3. 延長保育利用者数の状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
(標)利用者	147	127	165	153	151	135	135	136	129	109	109	128	1,624
(短)利用者	11	10	10	11	15	8	15	20	12	16	11	22	161

## 令和5年度 社会福祉法人 横路福祉会

### 貸借対照表

単位:円

科目	金額	科目	金額
流動資産	48,737,177	流動負債	6,167,545
固定資産	152,772,083	固定負債	7,935,400
		基本金	9,325,625
		国庫補助金等特別積立金	24,995,233
		その他の積立金	87,950,000
		次期繰越活動増減差額	65,135,457
計	201,509,260	計	201,509,260

### 収支決算書

科目	金額	科目	金額
人件費支出	112,600,073	保育所運営費収入	138,754,520
事業費支出	19,975,303	受取利息配当金収入	56,607
事務費支出	6,124,019	その他の収入	1,654,570
その他の支出	0	施設整備等補助金収入	0
固定資産取得支出	1,204,400	積立資産取崩収入	220,600
積立預金積立支出	607,200		
当期資金収支差額	175,302		
計	140,686,297	計	140,686,297

## 令和6年度 第1回役員会・評議員会

去る5月23日役員会、6月13日評議員会を開催し、令和5年度の事業内容と事業決算について審議の上承認されました。詳細（事業内容・財務諸表）はホームページ上で公開していますのでご覧ください。

## 令和5年度事業報告書

### 1・事業の概要

- 新型コロナウイルスの感染症がインフルエンザと同じ5類に変更された。濃厚接触者の定義の変更により、症状がなければ登園できるようになった。事後、各家庭での感染予防対策が後退し、保育所では、コロナに加えインフルエンザ等感染者が常在化する等、保育の受け入れに変化が生じ、園児の健康観察に時間を取られるようになった。本年度も保育行事は、感染状況等を注視しながらの開催となった。  
子どもたちの成長に必要な各種行事は、安全性をより確保できる事業の取捨選択と実施方法に工夫を凝らし、運動会は幼児クラス全体で、発表会は、各クラス別・時間差で実施する等、例年とは異なる行事経験を通して自信や想い出作りに努めた。一方、閉鎖的な保育とならないよう、日常の保育状況の映像をICTを活用し保護者へ配信した。  
感染状況により、外出制限をすることもあったが、昨年度実施した「はっけん散歩」を再開した。不思議と思うことを見つけ、自ら調べた内容を発表会で発表するなど自信につながった。また、こうした取り組みを、令和5年度の呉市保育連盟の研修会で発表し、保育士も自信につながった。一方、この活動が本に向き合う時間を増やし、数や字に興味を持つキッカケとなった。体力向上に必要な園庭での活動は、クラス別に時間差を設け、遊びを通じた体操や園庭内の散歩やランニングを行った。年長児による異年齢児交流を中止としたが、クラス内での役割当番を決め、給食や掃除等のお手伝いを行うことで自主性の醸成につながった。  
絵本の読み聞かせは、感染症に配慮しながら、幼児クラスや各クラス単位とし、回数の増加やその方法に工夫を凝らした。国際大学生のボランティアによる食育に関する絵本会は、食の大切さと体づくりに必要なことをクイズやゲーム感覚で学び、創造性の芽生えと集中力の養成に努めた。一方、保護者に対しては、在宅時間の有効活用のため、保育士の推薦する絵本だけの発行や本の貸し出しを推奨し、家庭内で本と触れ合う機会を増やした。なお、感染症対策として、ICTを活用した読み聞かせ映像の配信、また、絵本の消毒や貸し出し期間の工夫を行った。
- 情報公開については、ICTを活用した積極的な情報公開を行い公明正大な保育所運営に努めた。また、閲覧図書コーナーでは、義務付けられている公開文章をはじめ、個人情報に留意しながら保育所の自己評価や苦情内容等も公開している。
- 健やかな発育・発達のための食生活支援として、管理栄養士による園独自のメニューを組み、出汁は全てイリコや昆布カツオの自然素材調理を実施している。年々増加傾向にある食物アレルギー疾患児童に対しては、医師や保護者と管理栄養士・調理員・保育士が連携して子どもの状況を的確に把握するとともに、写真付き除去確認票で確認する等、事故防止対策に努めた。  
食材費が高騰する中で、毎月の給食検討委員会で季節感のあるメニューの検討や工夫に取り組んだ。また、育ちの中での「食」への取り組み状況を保護者に伝え、保育所と家庭が一体となった子育てに力を入れた。



私には2人の娘がいます。長女を妊娠中、妊娠高血圧症候群になり29週で出産することになりました。娘の出生体重は1145g。「最初の2日が山です」とドクターに言われていたようですが、私の体調を考慮して主人は私に伝えずに後に聞きました。私の体調が悪かったので、娘に会えたのは3日目（最初の山は越えてくれていました）。やっと会えた娘は、保育器の中でたくさん管に繋がれた状態。それに両手にすっぽりとおさまる大きさで対面した時は涙が止まりませんでした。『これからこの子はどうなっていくのだろうか？』『何らかの障害があったらどうしよう』という不安だけが強くなってきたのを覚えています。

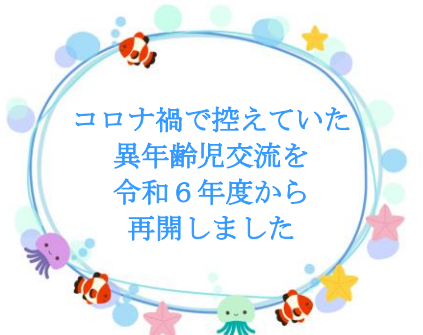
娘は2カ月近く入院していたのですが、「呼吸を助ける機械が取れました」「ミルクをお口から少し飲むようになりました」「母乳をあげることができすよ」「保育器から、もうすぐ卒業ですよ」「体重が〇〇グラムになりました」「もうすぐ退院できますよ」などちよつとした成長に喜びを感じていました。また、入院中は家族をはじめ、看護師さんなど周りのたくさんの人々に支えられ、不安な気持ちもありましたが少しずつ前向きになっていったこともよく覚えています。

娘が無事に退院できてからも何かと大変な子育てでした。保育士だから大丈夫と思って始めた子育てですが、娘はとても敏感な子で「どうして寝てくれないの？」「何ですつと泣いているの？」など・・・思っていた子育てとは違う現実には涙することもありました。

小学校に入学してからも「何でこんな事ができないんだろ？」「他の子と比べてしまうことも度々あり、娘に対してイライラして怒ってしまうこともよくありました。けれども、保育の研修等をきっかけに娘のままの姿を受け止めようと思うようになり、このイライラは私の理想の子どもの姿があるからだと思付きました。産まれてきた時には、ただ大きくなってほしいと願っていたのに、成長するにつれて欲が出てきていたのだと思います。それからは、娘なりのペースを受け止め関わるようにしていきました。ですが、マイペースな娘の姿に時にはイライラをぶつけてしまい、反省する・・・ということもよくありました。

こんな私の子育てですが、長女は素直な優しい子へと成長してくれました。今、大学1年生となり、看護の道へと進みました。この選択に不安もありましたが、娘が決めた選択です。また、看護の道は娘が産まれた時の原点だと思おうのでしっかりと応援していこうと思います。保育士と呼ばれる立場ですが、家庭では子育てについて思い悩む日々を過ごした事もあります。ですが、子育てに正解はなく、この思い悩んだ日々こそ親として成長させてくれたなあと思っています。

さて、最近では情報もたくさんあり、あの頃娘に対してこんなことをやっていたらどうなっていたかなあ・・・なんて考える事もありますが、過去を振り返っても仕方ありません。今年、次女は高校1年生になりました。夢を持って自分が決めた高校に進学しましたが、これからの事を考えると・・・まだまだ私の子育ては続きます。



小学校の卒業文集に、「将来の夢は、保育士です。」と書いたことを今でも覚えています。

きっかけは、保育所で出会った一人の先生でした。いつもその先生が膝の上で私の髪を可愛く結ってくれたことが嬉しくて、喜んで帰っていました。おばあちゃんっ子だった私にとって、その先生は第二の母親のような存在でした。いつしか私も子どもたちにとってそんな存在でありたいと思うようになり、保育士の道へ進んだのです。

そして、横路保育所とのご縁があり、夢の保育士となりました。1年・2年目は社会人としての責任を感じながらも、子どもたちの目まぐるしい成長や、面白い発想、素直で可愛い姿を間近で見ると保育士としてのやりがいを感じながら、いつしか5年目となりました。

また、昨年結婚し親元を離れたことで、改めて両親や周りの人たちへ感謝の気持ちをより一層感じるようになりました。それと同時に、毎日我が子のために、そして社会のために働く保護者を見て、支えたいと思うようになりました。保育士として新たな目標ができたのです。子どもが十人十色なら、保護者の悩みも十人十色。まだ子育ての経験もない私に何ができるのかと力不足を感じることもあります。私だからできることを日々考えています。

まだまだ未熟な部分や中堅としての葛藤もありますが、尊敬する先輩や心強い同期、明るい後輩たちに支えられ、これからも子どもたちが健やかに楽しい毎日を過ごせることを一番に、家事育児、仕事を頑張っている保護者をサポートできるように、私だからできることをしていきたいと思っています。